

平成21年03月修了
修士（学術）学位論文

企業と地域の協働パートナーシップ
に関する研究

～地域における中小企業のCSRモデル研究～

Corporate Social Responsibility model for small
to medium enterprises located in regional area

高知工科大学大学院 工学研究科 基盤工学専攻 起業家コース

学籍番号1117007

東森 歩

Ayumi Higashimori

企業と地域の協働パートナーシップに関する研究 ～地域における中小企業の CSR モデル研究～

論文要旨

本研究では、企業の社会的責任、いわゆる CSR (Corporate Social Responsibility) の果たすべき役割やその効果について取り上げ、企業の規模の違いに注目し、特に日本の地方の中小企業が CSR を実践するときの踏まえるべきポイントについて考察する。

バブル景気崩壊後の日本、企業不祥事が相次ぎ発覚し、様々な社会問題を引き起こした。また経済環境が厳しさを増す中で企業そのものの価値や、企業活動によって引き起こされる様々な影響について社会的関心が高まっている。もちろん株価等を基に投資家的視点を中心とした企業価値の判断基準もあるのだが、一般生活者が消費者の視点や純粋に企業活動における生産物の恩恵を受ける立場としての視点から企業を評価し、その生産物に対して購買したり利用したりするときの選択基準にしていることに、企業も目を向けなければならなくなった。それはインターネットの普及によって、世界規模でニュースが駆け抜け、個人がインターネットの上に情報を掲載できる時代になったことも大きな影響を与えている。単なる口コミが世界的ニュースへと繋がる時代になったのである。

そこで企業は本業で社会に価値を提供することはもちろん、本業と同期して収益の還元を社会から求められたり、また本業のスキルを活かして社会貢献することを期待されるようになった。そうした中で、企業がその事業を永続的に行うために社会から求められる要求を解決し社会に対して“お役に立つ”活動を CSR と呼び、事業戦略の中に取り込んでいく動きが増えている。

そこで CSR に関する各種先行研究や文献を調査してみたところ、CSR に関する先行研究には企業規模を問わず共通要素を取り上げた内容のものがほとんどであって、特に日本の地方における中小企業に焦点を当てた研究は明確になされていないことが分かった。

企業が CSR を実践するのは、企業の規模に関わらず各社共通の経営課題であって、普遍的なものであるというのが先行研究に著されている一般的な見方である。地方の中小企業における CSR の実践を経験から見ていると、大企業とは違った地方企業特有の CSR の取り組みがあると感じている。それは大企業が真似することができない、地方中小企業ならではの優位性となって、地域にしっかりと根ざした活動がそこにあると考えている。

地方社会の中に業務の拠点を置き、地域の伝統や生活習慣の中で生き抜いている地方中小企業には、その土地々状況に応じてしなやかに対応する力を備えることができると考えている。

そこで本論文では、企業の CSR の定義や競争環境下にある CSR など CSR の全体概要について述べた後、地方企業の CSR の特徴や実践事例に踏み込みながら、地方中小企業における CSR モデルを提唱する。